２０２２　京大模試４　現代文（大問一・文系大問二）　採点基準・採点例

■採点の原則

①　全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく０点とする。

②　得点箇所の漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等については、一つごとに１点減点する。尚、同一の誤字、送り仮名の誤りの繰り返しについては、１点だけの減点でよい。

一

問一

■形式上の不備

・文末表現は要素Ｅ参照

基準　配点８点

■模範解答例　※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A　佐々木喜善が素朴な方言で語る遠野の口碑に深く感動し、深く心を捉えられた柳田が、それを文字に書き付けることで、さらに多くの人々に語り伝えようとしたこと。

B

C

D

■要素Ａ「佐々木喜善が素朴な方言で語る遠野の口碑」：２点

■要素Ｂ「深く感動し、深く心を捉えられた柳田が、」：２点

■要素Ｃ「文字に書き付けることで」：２点

■要素Ｄ「さらに多くの人々に語り伝えようとした」：２点

■要素Ｅ　文末表現は「…（という）こと」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は１点減点。

問二

■形式上の不備
・文末表現は要素E参照

基準　配点8点

■模範解答例　※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A　自分たちの生活世界の外側にある世界に実在する人間が　B　ごく近い過去に実際に体験した出来事を伝える

C　新しいよい話であり、　D　見知らぬ世界の消息を伝えるもの。

■要素A「自分たちの生活世界の外側に実在する人間が」：2点

■要素B「ごく近い過去に実際に体験した出来事を伝える」：

■要素C「新しいよい話であり」：

■要素D「見知らぬ世界の消息を伝える」：

■要素E　文末表現は「…（という）もの」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問三

■形式上の不備
・文末表現は要素F参照

基準　配点１０点

■模範解答例　※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A　B　C　D

柳田が定義した「世間話」は、人や物の流動性の増大で　自律的な共同性が徐々に解体し、意識が生活世界の外に向かって開かれていった共同体の成員の心に浸透し拡大していった、伝説や昔話に代わる説話の形だったということ

E

■要素A「柳田国男が定義した『世間話』は」：１点

■要素B「人や物の流動性の増大で」：２点

■要素C「自律的な共同性が徐々に解体し」：２点

■要素D「意識が生活世界の外に向かって開かれていった共同体の成員」：３点

■要素E「伝説や昔話に代わる説話の形だった」：２点

■要素F　文末表現は「…（という）こと」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は１点減点。

問四

■形式上の不備
・文末表現は要素G参照

基準　配点１４点

■模範解答例　※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A　そこに生きる人々なら　B　位置や地理・地形、自然の情景まで容易に想起しうる地名から、　C　生きた表徴として　D　の土地の力を感じ取った柳田は、語り手としてそれを忠実に文字に置き換え、　E　出来事の現場に可能な限り身　F　を寄せ、あたかも自分自身の体験であるかのように語ろうとしたから。

■要素A「そこ（＝地名の場所）に生きる人々なら」：２点

■要素B「位置や地理・地形、自然の情景まで容易に想起しうる地名」：３点

■要素C「生きた表徴としての土地の力を感じ取った（柳田）」：３点

■要素D「語り手としてそれを忠実に文字に置き換え」：２点

■要素E「出来事の現場に可能な限り身を寄せ」：２点

■要素F「あたかも自分自身の体験であるかのように語ろうとした」：２点

■要素G　文末表現は「…から・ため」という形が原則。但し、理由説明の答案の文末表現として妥当な形であると判断されるなら可。不適切であると判断される場合はマイナス１点。

二〇二二年度　最終　京大本番レベル模試　理系

大問 二　問一

■問題8ページ、4行目の内容を説明する問題

■形式上の不備

・文末表現：不問

・句点の扱い：不問

基準　配点：10点

■模範解答　※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A 窮屈でゆとりがなく、B することもなく退屈な思いをするだけであることに加えて、C 年齢からくる身体の衰えによって道中の苦労も増してきた D わずらわしいだけの里帰り。

■採点方法：単独採点

■字数：不問

■要素A　窮屈でゆとりがなく：2点

■要素B　することもなく退屈な思いをするだけである：2点

■要素C　年齢からくる身体の衰えによって道中の苦労も増してきた：3点

■要素D　わずらわしいだけの里帰り：3点

・「正月の里帰りはわずらわしいだけのものである」ことの説明ができていること

・同意例：「難儀」・「気の進まない」など

大問二　問二

■問題8ページ、8行目の内容を説明する問題

■形式上の不備
・文末表現：不問
・句点の扱い：不問

基準　配点：9点

■模範解答　※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A 高齢であることを理由に、実家への里帰りを止めて B 自宅で一緒に正月を過ごすことを嫁から提案されると期待していたが、C 例年同様に今年もまた実家へ追い払われることになったということ。
（86字）

■採点方法：単独採点

■字数：不問

■要素A　高齢であることを理由に、実家への里帰りを止めて：3点

■要素B　自宅で一緒に正月を過ごすことを嫁から提案されると期待していた：3点

■要素C　例年同様に今年もまた実家へ追い払われることになった：3点

大問二　問三

■問題9ページ、14行目の内容を説明する問題

■形式上の不備

・文末表現：不問

・句点の扱い：不問

基準　配点：11点

■模範解答　※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

義理とはいえ家族であるにもかかわらず、正月をともに過ごすことを嫁からは許されず、そうかA
といって実家に帰っても骨休めができるでもなく、B岩蔵一家と過ごすひと時の方が、家族と一緒C
にいるような安らげる時間であると感じている。（108字）

■採点方法：単独採点

■字数：不問

■要素A　義理とはいえ家族であるにもかかわらず、正月をともに過ごすことを嫁からは許されず：3点

■要素B　実家に帰っても骨休めができるでもなく：4点

■要素C　岩蔵一家と過ごすひと時の方が、安らげる時間であると感じている：4点

三　古文　三〇点

内容説明の設問では末尾の句点がないものは1点減点。ただし現代語訳の設問では、文末の句読点は不問。

問一　傍線部（1）「はや対面（たいめ）すまじき人の、いのちなりけり。」は、西行が晩年に、再び急峻な坂の続く東街道の難所として知られた「佐夜の中山（現在の静岡県掛川市小夜鹿峠）」を越えて旅ができた感慨を詠んだ、次の和歌をふまえた言葉である。

年たけてまた越ゆべしと思ひきや命なりけり佐夜の中山　（『新古今和歌集』巻第十・羇旅歌）

傍線部（1）を、言葉を補って現代語訳せよ。（10点）

【模範解答】

なんとまあ、私は年老いているから、もうあなたと再び会うことはあるまいと思っていたのだが、そのあなたはこうしてはるばると私を訪うてくれたのだなあ、これも私の命がながらえてくれたおかげであったことよ。

【配点】

□の要素が揃っていれば（　）内の部分点を加点する。

1　「はや…けり」の訳（2点）

なんとまあ、…ことよ（だなあ）。

2　「対面（たいめ）すまじき」「年たけてまた越ゆべしと思ひきや」の主体（2点）

私は年老いているから（私は高齢になって／高齢の私は）

3　「対面（たいめ）すまじき」「年たけてまた越ゆべしと思ひきや」の解釈（3点）

あなたと再び会う（再会する）ことはあるまいと思っていたのだが（再会できるとは思っていなかったが／再会できると思っただろうか）、そのあなたはこうしてはるばると私を訪うてくれたのだなあ

☆　2・3の要素をまとめて、次のような表現も可とし、（5点）を与える。

あなたは（こうしてはるばると）高齢の私を訪うてくれた／あなたは（こうしてはるばると）生い先短い私を訪うてくれた

4

「いのちなりけり・命なりけり」の解釈（3点）

（これも）私の命がながらえてくれたおかげである

／これも私の寿命（長寿／天命／生命力／命冥加）のおかげ（によってのこと／せい）である

／ありがたいのは、私の寿命（長寿／天命／生命力／命冥加）である

／私の寿命（長寿／天命／生命力／命冥加）に感謝せねばならない

問二　傍線部（2）を、言葉を補って現代語訳せよ。（10点）

（2）花の時のみゆるされてそこの寺院に遊ぶ。

【模範解答】

長崎にいる清国からの渡航者たちは、桜の花が満開になる時だけは、居留地の唐人屋敷から外に出ることをゆるされていて、彼らは長崎にある中国人の寺院で花見の宴を催すのである。（83字＝3行）

【配点】

□の要素が揃っていれば（　）内の部分点を加点する。

1　「花の時のみゆるされてそこの寺院に遊ぶ」の主体（3点）

長崎にいる清国（中国）からの渡航者（来航者／商人たち）は／長崎に滞在している清人（中国人）は

2　「花の時のみ」の訳（2点）

桜の花が満開になる時だけ（桜の開花時だけ／桜が見頃の時に限り）

3　「ゆるされて」の訳（2点）

居留地の唐人屋敷（唐人屋敷／長崎の居留地／居留地）から外に出ることをゆるされていて（許可されていて）

4　「そこの寺院に遊ぶ」の訳（3点）

長崎（にある中国人）の寺院（長崎の寺）で花見の宴を催す（花見をする／観桜会をひらく）のである。

問三　傍線部（3）はどのようなことを言っているか、説明せよ。（10点）

（3）酔ひ言に通詞はいらず花の友

【模範解答】

満開の桜を愛でる美意識は万国共通であり、酔いしれるまで酒を酌み交わす異国の者同士は、おのずとその気持ちが通い合うもので、もはや通訳など必要なくなるということ。（79字＝3行）

【配点】

□の要素が揃っていれば（　）内の部分点を加点する。

1　「花の友」の解釈（3点）

「観桜のような自然の美を愛する感性は普遍的なものである」という趣旨。

（満開の）桜を愛でる美意識は万国共通であり（美しい桜の花を愛するのは普遍的なことであって／花見を楽しむ行為はどこの国の人間も同じで／自然の美を賞美する感性は普遍性があって）

2　「酔ひ言に」の解釈（3点）

「酒や美に酔いしれている人間と人間の心理は、曖昧模糊としたものであるが、自然と通い合うものである」という趣旨。

酔いしれるまで酒を酌み交わす異国の者どうし（酔っぱらったものの間で／酔いしれている人間どうし／陶然としていることは人と人の間で）は、おのずとその気持ちが通い合う（自然と心が通じ合う／自然とわかり合える）もので、

3　「通詞はいらず」の解釈

「2のような状態になっている、1の属性を持つ者同士には、異言語通訳（言語交流）の必要など無くなる」という趣旨。

（もはや）通訳など必要なくなる（通訳はいらない／言葉の違いなどは必要なくなる）ということ。（4点）